

第1号議案 令和元年度事業報告及び計算書類等の承認の件

令和元年度事業報告

(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

一般財団法人本山町農業公社

1. 実施事業

継1) 農用地利用推進事業(農地利用集積・農作業受委託)

農用地利用推進事業は、農地利用集積円滑化事業(農地の貸借)と、農作業受委託を実施する公益目的事業で、担い手農家の減少や高齢化による耕作放棄地の防止、農作業受託による農家負担軽減に向けて、町や農業委員会、農業改良普及所など関係機関と連携して取り組みを進めました。また、農業委員会へ農地利用最適化推進委員として、2名の職員を送り出し活動をしました。



【農地利用円滑化事業】

令和元年度末の借入面積は、3454.18a(30年度末2697a)となっており、利用権設定の手続きが昨年に比べて大幅に増大しました。その理由として、中山間地域等直接支払制度の第5期対策へ移行を見据えた設定が行われたものと予測しています。また、農地の借り手よりも貸し手が多い状態で借入面積のうち、7.11haは、耕作条件不利地などで借り手がなく、町から委託を受けて実施している産業活性化未来創造構築事業で農地を守る取り組みに専属の職員を配置し、農地の適正な管理に努めました。今後、新規就農者の育成並びに農作業の効率化など対応策が急がれています。

また、令和2年4月1日より農業経営基盤強化促進法等の関係法令が改正されることに伴い、これまで当公社が農地利用集積円滑化団体として取り組んできた業務は、高知県農業公社が行う農地中間管理事業に統合されます。これにより、当公社が実施してきた農地所有者代理事業等の新たな利用権の設定はできなくなります。そこで農業経営基盤強化促進法に伴う相対取引を農家から委託を受けて事務支援をする方法で、農地流動化の新たな支援体制を整えました。なお、令和2年3月31日までに設定している利用権は、期間中引き続き事務支援をして行きます。

【農作業受委託事業】

事業実績では、若干の増減はあるものの、ほぼ横ばいの状況です。その理由として、委託を求める農家は、増加傾向にあるものの、各集落営農組織の活動が増加部分を支え、さらに高齢化などで規模縮小をしている大部分の農地を担い手農家が集積しているからであると推測しています。今後も、集落営農団体や担い手農業者と連携を強化し、農作業オペレーターの確保や育成を進めなければなりません。



田植指導を受ける職員

また、作業機械は整備の専門職員により、維持管理に努めていますが、機械の老朽化が進んでいます。有利な制度の活用など、町と協議をしながら機械の更新を進めなければなりません。

受託農作業実績

単位：a（戸数）

	育苗	あぜ塗り	水田整地～代掻き
27	3,472 枚（24）	837.9（8）	1,535.5（21）
28	3,768 枚（25）	809.6（6）	1,125.9（15）
29	3,448 枚（26）	936.4（10）	861.7（14）
30 年度	3,433 枚（27）	873.2（10）	1,653.8（15）
元年度	3,078 枚（27）	879.1（10）	1,458.2（13）
	田植え	刈り取り	籾摺り
27	2,037.6（49）	3,286.1（65）	6,478 袋（115）
28	1,899.4（41）	3,534.0（82）	7,797 袋（113）
29	1,442.8（43）	3,464.0（74）	7,487 袋（114）
30 年度	1,556.1（46）	3,832.2（93）	6,921 袋（108）
元年度	1,424.5（46）	3,403.4（67）	7,143 袋（116）

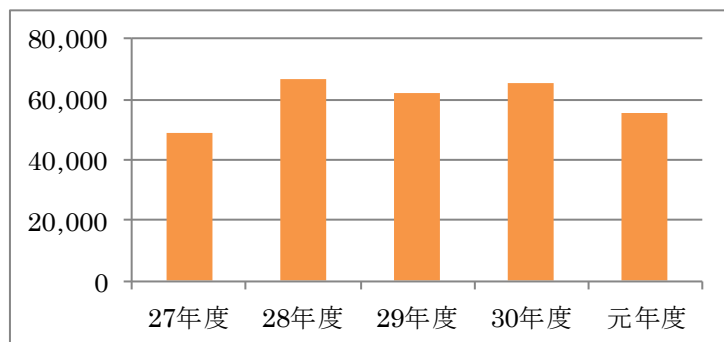
2. その他事業

他 1) 米生産事業

農家の所得向上を目指し、ブランド米「土佐天空の郷」の取り組みや「天空の棚田米」「契約栽培米」などの付加価値米を生産販売しましたが、下記のとおり、売り上げを大きく減少させる結果となっています。

＜米生産事業 売上比較表＞

(千円)



27 年度	49,163
28 年度	66,369
29 年度	61,738
30 年度	65,628
元年度	55,643

＜土佐天空の郷 等級比較＞

	元年産			30年産		
	1等	2等	計	1等	2等	計
ヒノヒカリ	839	414	1,253	428	1,334	1,762
にこまる	1,045	380	1,425	1,066	229	1,295
計	1,884	794	2,678	1,494	1,563	3,057
作付面積	約 27ha (ヒノ約 12ha・にこ約 15ha)			約 28ha (ヒノ約 15ha・にこ約 13ha)		
反収	約 5 俵			約 5 俵		

＜土佐天空の郷の生産状況＞

年度	生産者数	生産面積	全体 30 kg袋数	全体重量
H21	22 人	15.5ha	2,200 袋/30 ^{キロ} □	約 66 トン
H22	26 人	20.1ha	2,700 袋/30 ^{キロ} □	約 81 トン
H23	36 人	26ha	3,823 袋/30 ^{キロ} □	約 114 トン
H24	35 人	28ha	3,655 袋/30 ^{キロ} □	約 109 トン
H25	39 人	32ha	4,419 袋/30 ^{キロ} □	約 132 トン
H26	39 人	34ha	3,951 袋/30 ^{キロ} □	約 118 トン
H27	41 人	34ha	3,581 袋/30 ^{キロ} □	約 107 トン
H28	36 人	31ha	4,344 袋/30 ^{キロ} □	約 130 トン
H29	35 人	29ha	4,226 袋/30 ^{キロ} □	約 126 トン
H30	34 人	28ha	3,057 袋/30 ^{キロ} □	約 91 トン
R 元	34 人	27ha	2,678 袋/30 ^{キロ} □	約 80 トン

【土佐天空の郷の取り組み】

(生産)

令和元年産米は、7月から8月の日照不足やウンカなど害虫の発生により、不作であった30年産米から、さらに全体で379袋/30kgの減収となり、農家にとって非常に厳しい年となりました。また、この天候不順の影響もあり、全国の食味コンクールで入賞を果たすことは出来ませんでした。しかし、日本穀物検定協会が毎年発表するコメの食味ランキングでは、高知県北地域の『にこまる』が3年連続で最高ランクの特A、高知県産ヒノヒカリでも、県で初めて特Aを獲得するなど、嶺北地域のコメの食味値の高さを証明することができています。

(スマート農業)

また、労力軽減と品質向上、収量増を目標に取り組みを進めるスマート農業（水田センサーの活用）では、嶺北農業改良普及所と連携することで、出穂からの積算温度で収穫期の品質状況を分析し、高品質米が生産される積算温度域を調査しました。また、水管理の方法で収量と品質に3割ほど差が出ていることが判明し、目標達成につなげる大きな気づきがありました。

山間農業地域で取り組まれるスマート農業は、事例が少なく世界から注目を浴びた年でした。9月15日から22日には、タイ王国から招待を受け、バンコクとチェンマイを訪問し、スマート農業を研究する政府機関、企業、大学と意見交換を行いました。また、講師を務めたイノベーション庁主催のSmart Farming 2019では、300名以上が応募したことで会場が満員となり、入場できない方のために、インターネットで配信されるほどでした。国内では、内閣府、総務省、農林水産省の省庁をはじめ、全国から視察が相次ぎました。さらに、全国の農業普及指導員を対象とした農林水産省主催の「農業革新支援専門員全国ネットワーク会議」や東京大学で開催された「スマート水田社会実装に向けたシンポジウム」など様々な講師を務め、スマート農業を展開するブランド米「土佐天空の郷」を大きくア



知事に特Aを報告 3/31



ネット配信されたタイ王国での講演

ピールすることができました。

(販売)

町特産品ブランド化推進協議会と連携した取り組みの中で、2度の食味日本一の獲得やメディアや企業へ呼びかけを強化してきたことで、知名度は高まっています。しかし、不作の影響により、当公社の販売量減少やこれまで玄米の取引を続けてきた企業へも出荷制限を余儀なくされました。さらに、コロナウィルス感染症の影響も伴い、売り上げを大きく下げる要因となりました。

また、新たな販売方法も検討しています。これまでの玄米出荷中心の販売方法を見直し、加工販売で地域経済の活性化に繋げる

「おむすびの計画」を実現するため農林水産省の農山漁村振興交付金（地域活性化対策）に応募し、採択

されています。この事業では、町、町農業公社、町ブランド化推進協議会、四国銀行で構成する「本山町みらい創造協議会」を立ち上げ、計画策定や実践事業を行いました。

【契約栽培米・天空の棚田米の取り組み】

ヒノヒカリと香り米（ギフ錦）をブレンドした「契約栽培米」や棚田の慣行栽培米やブランド米の基準に達することの出来なかった米などを大手量販店や飲食店へ「天空の棚田米」として販売しました。中でも、「天空の棚田米」は、2kgと5kgの精米で約17,387千円を売り上げるなど、ブランド米「土佐天空の郷」に次ぐ主力商品に成長しています。

【中山間地域等直接支払制度・多面的機能交付金に伴う事務支援】

生産条件の不利な中山間地域において、農用地を維持管理していくために面積に応じて、一定額を交付する仕組みである中山間地域等直接支払制度の事務受託の体制を整えました。また、新たな試みとして、町全域を対象に多面的機能支払交付金を活用する組織「土佐天空の郷保全会」を立ち上げ、担当職員を配置し、農地を守る仕組みを一層強化しています。



本山町みらい創造協議会の設立

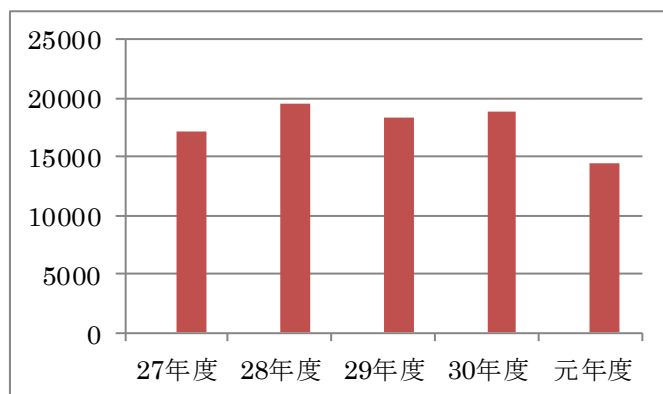


土佐天空の郷保全会総会の様子

他 2) 種苗事業

＜種苗事業売上比較＞

(千円)



27 年度	17, 220
28 年度	19, 495
29 年度	18, 348
30 年度	18, 846
元年度	14, 397

【苗生産事業】

嶺北管内や県平野部へ園芸用苗の供給、産直向けの花苗の生産を行いながら、育苗技術の向上に努めました。嶺北管内の生産農家は、高齢化や離農などで減少傾向にあり、平成 15 年度の最高売上げ（育苗実績 26,904 千円）から大きく減少しています。また、令和元年度は、近年の売上高と比較しても、大きく減少しています。この要因として、大口の出荷先であった企業の事業撤退により、セル苗出荷が減少したことや農家の希望する出荷期の重なりにより、ハウス面積から受注が困難となったことがあげられます。ハウスの受注限界をしっかりと把握し、無駄のない展開が求められます。さらに近年の高温による着花不良を理由に、農家（嶺北地域）は、早期の定植で、年間の収穫期間を延ばして経営を安定させようとしており、11 月頃からの育苗が求められるようになっていきます。しかし、当公社のライスセンター業務と重なることで、種苗センターが稼働できず、受注を出来なかったことが減収の主な理由です。種苗事業を精査し、収入増に繋げる対策が求められています。そのため、来春に向けて、ハウス苗の入出庫の見える化で受入れ苗の増加、予備苗生産量の見直し、加温費や冬季の育苗期間に対する人件費など、栽培体制や苗代の見直しを始めています。

【スマート農業】

当公社のハウスは、建設から 20 年以上経過し、老朽化が激しく更新の時



統合環境制御システムを操作する職員

期を迎えていました。高知県環境制御技術高度化事業を活用し、ハウス環境を高度化させることで、被覆資材やカーテン資材の更新を進めました。事業では、太陽光を均等に分配するフッ素フィルム（エフクリーン ナシジタイプ）やカーテン資材（ソラロ・ラクソス）などを導入し、これまで以上に良質な苗の出荷体制が構築されました。また、同時に自動換気など気象状況に応じてハウス環境を細かく調整することのできる統合環境制御システム（アネシス Q2600）を導入し、ハウス管理の自動化と遠隔操作を可能にしました。これにより、生産管理の省力化となっています。

さらに、高知県複合経営拠点支援事業において、ISO 社（オランダ）の接木ロボットを導入し、接木の労力軽減と技術継承を図る体制を構築しました。接木ロボットは、誰もが簡単に使用することができる半自動の機械であり、手作業の接木で1時間100が限界だった接木を機械導入により、1時間で最大1000本にまで可能とするものです。この接木ロボットをフル活用するために、穂木と台木の茎の直径を同一とする技術の習得が急がれています。

【ヤーコン事業】

「サラダオトメ」「アンデスの雪」「アンデスの乙女」の農研機構と品種利用許諾を締結し、取り組みを進めています。元年度は、苗出荷から種子出荷へ変更し、種苗センターの労力軽減と農家の苗代抑制を図りました。また、本山ヤーコン組合で研究を重ねた成果もあり、各生産者は収量増につながりました。

今後の課題として、売れる加工品開発、付加価値販売が求められており、取り組みを強化しなければなりません。



ISO 社（オランダ）の指導を受ける職員



ヤーコン視察研修（香川県）

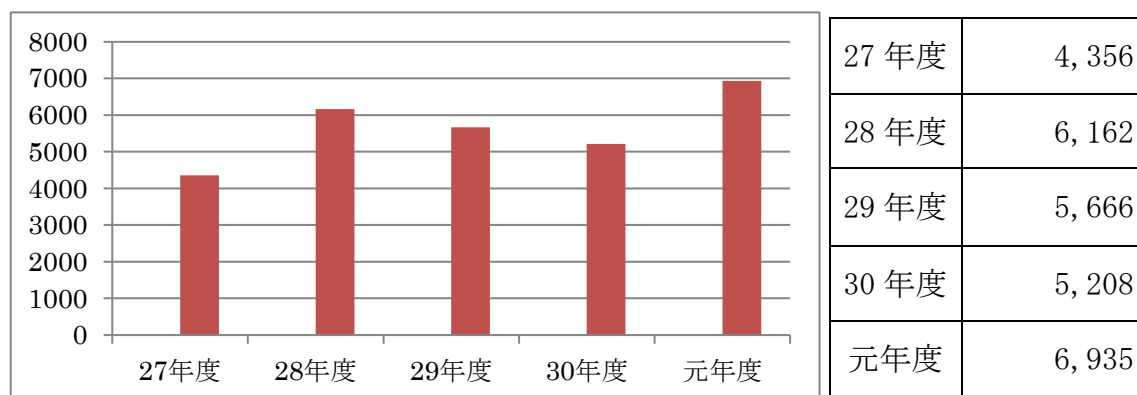
令和元年度育苗実績と前年度比較

品 種	出荷先	本数（本）		金額（千円）		増減金額
		元年度	30 年度	元年度	30 年度	
ミニトマト	嶺北	3,649	3,849	667	629	38
トマト	嶺北	6,504	6,544	797	828	△31
シシトウ	嶺北	7,183	9,756	1,521	2,224	△703
	津野町	2,700	2,730			
ピーマン	嶺北	6,809	5,340	2,425	4,316	△1,891
パプリ娘・ペイビーキッス		7,936	19,664			
米ナス	嶺北	4,869	11,364	2,079	3,113	△1,034
	津野町	4,680	4,690			
ナス	安芸方面	34,602	38,780	5,722	6,097	△375
白菜	嶺北	1,247	6,767	100	188	△88
レタス		50	562			
キャベツ		385	2,884			
ブロッコリー		169	1,054			
長ナス	嶺北	190	415	74	37	37
中長ナス		492	0			
ヤーコン	嶺北	—	714	69	125	△56
本山さくら市	嶺北	—	—	143	455	△312
花苗	嶺北	3,207	3,395	324	333	△9
土佐花き園芸等	高知市	—	—	0	79	△79
その他				476	415	61
合計		84,672	118,598	14,397	18,846	△4,449

他 3) 特産品普及事業

＜特産品普及事業売上比較＞

(千円)



ブランド米「土佐天空の郷」を活用し、地域経済の活性化に繋げる「おむすび計画」を構築するため、農林水産省の農山漁村振興交付金（地域活性化対策）を活用し、町、町農業公社、町ブランド化推進協議会、四国銀行で構成する「本山町みらい創造協議会」を組織し、計画策定や実践事業を行いました。また、町産業活性化未来創造構築事業で6次産業化に向けた取り組みを進めました。この取り組みでは、加工品開発会議を定期的に行い、既存商品のブラッシュアップや新商品開発、売上一千万円を目標に販売力を強化してきました。しかし、デザインや味の決定など商品開発に時間を要し、販売期間が短くなったことやコロナウィルス感染症の影響もあり、目標額には届きませんでした。

「土佐天空の郷 おむすび計画」

東京国際フォーラムで開催された「町いち村いち 2019（11月30日～12月1日）」におむすび屋として出店し、塩むすびをメインに2日間でおむすび1607個（285千円）を売上げました。会場では、米の美味しさに感動し、何度も足を運ぶリピーターができるなどおむすび屋出店へ感触をつかみました。また、東京都内でおむすび店を営む百千（ももち）に職員を4週間派遣し、運営方法や技術を実践で学びました。これらのノウハウを基にブランド米「土佐天空の郷」を使ったおむすび屋計画を進めています。

「天空の郷玄米グラノーラ」

土佐天空の郷の中米（玄米）をポン菓子に加工し、町産生姜、さくら味噌を合わせたグラノーラ風のお菓子は、人気商品として定着を始めています。更に販



「天空の郷せんべい」

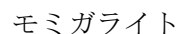
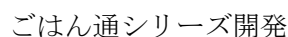
「ごはん通シリーズ」

「焼肉のたれ あかうし」

その他にも白米をポン菓子にし、さくら味噌と生姜を使い水飴でブロック状に固めた「ぽんぽん」、伝統の製法で作られる「北山こんにゃく」、町産の八重桜と深海の華（塩）を

一方、見直しをした商品もあります。加熱した米を粉末にして出来た「ポン粉」と野菜の粉末を合わせた「ポン粉スープ（緑の野菜・橙の野菜・白の野菜・黄の野菜の4タイプ）」や、新潟県に依頼して製造している「土佐天空の郷 甘酒」「願開舟 神社エール」は、甘酒ブームが去ったことなど販売に苦戦していました。商品販売を休止して、改良など検討をしていきます。

また、従来からライスセンターで発生する籾殻の処理に苦労していましたが、農林水産省の中山間地域所得向上支援事業で、グラインドミルを導入し、無料の副産物を加工した商品開発をしています。この機械は、籾殻を粉碎し10分の1に圧縮しながら約300℃の高温で棒状の固形燃料「モミガライト」に成形します。この際、接着剤などは、一切使用せず籾殻100%で作る製品です。この燃料を商品化するため、高知県防災認定審



査を受験しています。結果は、認定保留となっていますが、今後、独自性を持たせることで防災認定を受けるようになっています。

防災認定を受け、災害に対応する商品として、県内外に展開を広めて行く準備をしています。また、粳穀を粉砕してあることで腐食しやすいことから水田のケイ酸利用や畜舎の敷料として、農家の協力でテストを実施しています。

他 4) 委託事業

町の派遣で活動を始めた地域おこし協力隊は、地域農業の存続や中山間の特色を活かした新たな展開を目指して活動し、1 名が 9 月末まで特産品普及事業の担当として、加工品開発を中心に活躍しました。また、3 月からは、新たな隊員着任し、農地の流動化や多面的機能交付金の取り組みを中心に活動を始めています。

他 5) 施設管理事業

町と締結した種苗センターとライスセンターの施設の管理に関する協定書（平成 27 年 8 月 1 日から令和 2 年 7 月 31 日までの 5 年間）に基づいて、適正な施設管理に努めました。

施設の老朽化が進むため、計画的に更新してゆく必要があります。本年は、種苗センター並びにライスセンターのキュービクル再塗装や PC ヒューズ交換、育苗ベンチの更新を実施し対応しました。

なお、施設管理には、高額な費用を要することから町と協議を進め、適正な管理に努めます。

3. 法人管理

(1) 評議員・役員（理事・監事）

令和元年3月31日現在

評議員【任期4年】

役職	氏 名	主な職業	就 任 日
評議員長	今西 芳彦	本山町森林組合長	平成29年6月21日
評議員	細川 博司	本山町長	平成30年6月21日
評議員	松岡 寛	本山町副町長	平成30年6月21日
評議員	永野 栄一	本山町議会議長	令和元年6月24日
評議員	山下 文一	本山町農業委員会会長	平成29年6月21日
評議員	河野 龍彦	JA 高知県土長地区北部経済担当常務	令和元年6月24日
評議員	西村 行雄	(株)れいほく未来代表取締役	平成29年6月21日

役員

役職	氏 名	主な職業	就任日
理事長	森 圭	商業	令和元年6月24日
専務理事	和田耕一	本山町まちづくり推進課課長補佐	令和元年6月24日
理事	古田浩二	農林業	令和元年6月24日
理事	田岡 清	農業	令和元年6月24日
理事	右城雄一	農業	令和元年6月24日
理事	庵原恵子	六次産業	令和元年6月24日
理事	森 博文	JA 高知県土長地区れいほく営農経済センター部長	令和元年6月24日
理事	川村勝彦	本山町まちづくり推進課課長	令和元年6月24日

監事	畠山憲明	農業	平成29年6月21日
監事	武内 則之	本山町商工会事務局長	令和元年6月24日

役員の定数は、理事3名以上8名以内。監事は2名以内である（定款第24条）。
理事の任期は2年、監事の任期は4年である（定款第28条）。

(2) 評議員会及び理事会の開催状況

年月日	会議等	議題
5 月 24 日	監査	決算監査
5 月 31 日	第 1 回理事会	H30 事業報告及び計算書類等の承認 公益目的財産額について 令和元定時評議員会の招集の件 評議員候補者提案の件 理事候補者提案の件 監事候補者の提案の件 基本財産の取り崩し提案の件 顧問契約の件 組織規程の改正の件
6 月 24 日	定時評議員会	H30 事業報告及び計算書類等の承認 公益目的財産額について R 元年度事業計画及び収支予算報告 評議員選任の件 理事選任の件 監事選任の件 基本財産の取り崩しの件
6 月 24 日	第 2 回理事会	役員（理事長及び専務理事）の選定の件
11 月 20 日	第 3 回理事会	高知県環境制御技術高度化事業について コンバインの更新について
12 月 19 日	第 4 回理事会	職務執行状況報告 令和元年度上期事業報告 農地利用集積円滑化事業について 中山間地域等直接支払制度の事務委託及び多面的機能交付金における活動について
令和 2 年 3 月 26 日	第 5 回理事会	職務執行状況報告 R 元年度事業計画及び収支予算承認 農作業受委託料の決定の件 本山町農業公社組織規程の改定の件 職員手当の支給に関する規定の改定の件

(3) 職員体制

令和元年3月31日現在

氏 名	役職・担当業務	採 用 等
和田 耕一	専務理事（町から派遣）	平成15年 4月1日
眞邊 祐也	事務局長	平成 9年 4月1日
上村 有美	主任（町から派遣）	平成30年 4月1日
小原 由輝	総務部兼事業部生産班主任	平成26年 4月1日
筒井 佑	事業部種苗班副主任	平成26年 4月1日
マイケル シンプソン	特産品普及事業	平成 8年 4月1日
長野 翔太	事業部生産班	平成31年 4月1日
横山 聖久	事業部生産班	平成31年 4月1日
前田 慎也	種苗事業及び米生産事業	平成31年 4月1日
金子 佳子	法人会計及び運営事務	平成14年 3月1日
山内 学	農作業受委託及び米生産事業	平成23年 9月1日

附属明細書

事業報告の内容を補足する事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していません。

(資料)

主な業務経過報告

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

月 日	業 務 内 容
4月16日	中四国農政局との協議（役場会議室）
18日	四万十ドラマとのふるさと納税会議（四万十町十和）
23日	町担い手育成総合支援協議会総会（役場会議室）
5月15日	総務省水田センサー視察（役場会議室）
17日	本山町みらい創造協議会設立総会（役場会議室） 本山町商工会総会（プラチナセンター）
23日	町アウトドアの里づくり推進協議会（役場会議室）
27日	県対話と実行行脚（下津野）
29日	県産業振興計画会議（JA 高知県れいほく支所）
6月 4日	総務省関連冊子取材（6/4～5 役場会議室等）
5日	農村集落活性化協議会総会（役場会議室）
6日	ディスカバー農山漁村の宝サミット（6/6～8 東京都）
12日	県庁農業担い手支援課視察（公社会議室）
18日	南国法人会総会（南国市）
19日	総務省との協議（役場会議室）
20日	四国アライアンス視察（公社会議室・現地）
27日	農林水産省視察（役場会議室）
28日	内閣府、総務省視察（役場会議室）
29日	アウトドアビレッジ施設落成式（モンベル本山）
7月 1日	農業委員会視察研修（7/1～2 奈良県）
10日	多面的機能交付金打合せ会議（役場会議室）
11日	高知新聞スマート農業取材（公社会議室）
16日	産業振興計画会議（役場会議室）
28日	かかしアートコンテストコンテスト（さくら市）
30日	グランフロント大阪、県大阪事務所視察（公社会議室、現地）
8月 6日	県環境制御技術高度化事業打合せ（ちばさんセンター） 多面的機能交付金事業視察研修（日高村役場）
9日	商工会連合会との打ち合わせ（公社会議室）
21日	タイ王国領事官との打合せ（プラチナセンター研修室）
22日	本山町みらい創造協議会 県東部食材視察（室戸市・田野町・安芸市）
31日	農林水産省政策課視察（公社会議室）
9月 2日	本山町みらい創造協議会 おむすび屋視察（～3 東京都）

	6 日	加古川楽市出店（～8 兵庫県加古川市）
	1 5 日	タイ王国スマート農業関連での講師（～22 バンコク、チェンマイ）
	3 0 日	NTT ドコモとのスマート農業推進のための協議（公社会議室） 凸版印刷とのスマート農業推進のための協議（公社会議室）
1 0 月	4 日	農林水産省スマート農業関連での講師（～4 東京都）
	1 8 日	本山町みらい創造協議会 県中央部食材視察（高知市）
	2 3 日	複合経営拠点推進会議（公社会議室）
	2 8 日	普及所と次年度のスマート農業打合せ（公社事務所）
1 1 月	5 日	棚田地域振興法説明会（岡山県岡山市）
	6 日	JA 高知市視察（公社会議室）
	7 日	本山町みらい創造協議会（公社会議室） 百千との協議・関東高知県人会等（～10 東京都）
	1 1 日	共進会（嶺北家畜市場）
	1 2 日	凸版印刷とのスマート農業推進のための協議（公社会議室・現場）
	1 4 日	NTT ドコモとのスマート農業推進のための協議（公社会議室）
	1 5 日	岡山県新見市視察（本山町保健福祉センター）
	1 7 日	本山町産業文化祭（吉野川ふれあい広場）
	1 9 日	和歌山県白浜町視察（本山町保健福祉センター）
	2 7 日	愛媛県久万高原町視察（本山町議場）
	2 8 日	高知県防災認定審査会（高知市高知会館）
	2 9 日	本山町みらい創造協議会町イチ村イチ 2019（～12/2 東京都）
1 2 月	5 日	総務省四国通信局長との協議（役場会議室）
	6 日	農業委員会忘年会（12/6 門田仕出し店）
	1 0 日	接木ロボットトレーニング（～12 種苗センター管理棟）
	1 8 日	働き方改革に伴い社労士と協議（農業公社会議室）
	1 8 日	本山ヤーコン組合総会（農業公社会議室）
	2 4 日	明治大学小田切教授視察（農業公社会議室）
	2 7 日	農業公社仕事納め（公社会議室）
1 月	6 日	農業公社仕事始め（公社会議室）
	6 日	多面的機能交付金事務協議（役場まちづくり推進課）
	9 日	高知県産業振興センターとスマート機器打合せ（公社会議室）
	1 5 日	企画調整会議（役場第一会議室）
	2 0 日	多面的機能交付金事務協議（公社会議室）
	2 2 日	ディスカバー農山漁村の宝奨励賞受賞式（町長室） スマート農業に向けた打合せ（東京都 霞が関）
	2 3 日	米卸業者との協議（東京都 はくばく本社）

	24日	愛知県庁視察対応（公社会議室）
	28日	多面的機能交付金寺家地区説明会（寺家公民館）
	29日	スマート水田社会実装に向けたシンポジウム講演（東京大学）
2月	4日	多面的機能交付金事務打ち合わせ（公社会議室）
	5日	本山町みらい創造協議会計画策定委員会（プラチナセンター研修室）
	7日	組織連携説明会（高知城ホール）
	8日	多面的機能交付金本山地区説明会（役場第一会議室）
	10日	多面的機能交付金事務打ち合わせ（公社事務所）
	13日	多面的機能交付金協議会設立総会（役場第一会議室）
	17日	高知県環境制御技術高度化事業完成検査（種苗センター）
	21日	早稲田大学柏教授ら視察受入（公社事務所）
	26日	複合経営拠点フォローアップセミナー（公社会議室）
	28日	ディスカバー農山漁村の宝奨励賞受賞祝賀会（ハーベステラス）
3月	2日	地域おこし協力隊委嘱式（役場会議室）
	2日	京都府伊根町視察（プラチナセンターふれあいホール）
	4日	集落支援員導入打合せ（役場まちづくり推進課）
	11日	会計検査（中央東農業振興センター）
	12日	本山町みらい創造協議会（役場会議室）
	13日	農業作業オペレーター会（公社事務所）
	27日	全国農業新聞取材（公社会議室・現場）
	31日	知事表敬訪問（高知県庁知事室）